

(参 考)

審議の際に出された主な意見・要望等

審議において委員から出された主な意見・要望等を参考として添付しますので、今後の参考とさせていただきますようお願いいたします。

序論

- ・ 計画全体を示すピラミッドのイメージがわかりづらい。基本構想の重要さが伝わらないのではないか。
- ・ ピラミッドのなかに基本目標を示したらわかりやすいのではないか。
- ・ 「(5)地球規模の環境問題」の文末表現がそろっていない。

基本構想について

【基本理念について】

- ・ 市民憲章は基本理念としては良いのではないか。
- ・ 憲章をそのまま理念として書かずに、違う言い回しにしてはどうか。
- ・ 憲章文そのままではなく、「市民憲章の精神を基本理念として」はどうか。
- ・ 基本理念のなかで安全・安心という意味が表現として希薄になっている。憲章文そのままなので安全・安心の表現がない。ストレートに表現するなど字句を見直してもらいたい。
- ・ 市民憲章の「公害」の言葉は疑問もあり、修正する時期ではないか。
- ・ 市民憲章の見直して、「人間尊重」を「互いを尊重し合う」とできないか。
- ・ 市民憲章はマンネリになっていると思うが問題ないのではないか。

【将来都市像について】

- ・ 都市像は、わかりやすく市民にも覚えやすいので良い。
- ・ 「都市」から「まち」に変わったことは大事で、市民に理解されるよう表現を考えてほしい。
- ・ いろいろな意味が入っているので、市民にどれだけ理解されるかわからない。
- ・ 前文に都市像の内容をしっかり付け加えないと意味が伝わらない。都市像につながる説明が必要ではないか。
- ・ 公約と似ており、10年間のスローガンとしては違和感がある。
- ・ 市長の思いが強く根底にあるということで良い。
- ・ 市民憲章の「都市」を基本目標と同じ「まち」にできないか。

将来人口の想定

- ・ 年齢構成も考慮した人口維持のための具体的な施策が記載できれば良い。
- ・ 5万3千人が良い悪いではなく、具体的にどんな手が打てるか、中身次第ではないか。
- ・ 人口維持や増加には、環境や医療など産業以外の施策も必要ではないか。
- ・ 住宅価格の問題で市外へ出る人がいる。小規模土地の分譲など具体的に載せてはどうか。
- ・ 基本となる人口がぶれると他のいろいろな計画に対するぶれが出るので堅めに見るのが良くないか。
- ・ 将来人口の棒グラフからは人口を増やすねらいや生産に携わる人、年少者を増やすニュアンスが読み取れない。
- ・ 3千人を増やすことは困難で、現実にそぐわない。5万人がより良い暮らしができる目標が良いのではないか。
- ・ 実現可能な線より、努力する目標を設定した計画の方が良いのではないか。
- ・ すぐ届くようなものだと目標にならない。
- ・ 宅地造成や環境整備したにもかかわらず人口が減少する理由の分析が必要ではないか。
- ・ 「出生率の低下」を人口減少の最大の要因とするのは、子どもの産めない女性にはきつい表現ではないか。
- ・ 実際に働く人口を生産年齢人口ととらえてはどうか。
- ・ 人口の年齢別区分のグラフがわかりづらい。

土地利用の構想

- ・ 地域別と目的別を一体とした区分の方が良いのではないか。
- ・ 農地に関する記述が少ないのではないか。農振農用地域以外に農業を守る記述がない。
- ・ 駅南開発は金額を多額に投入したが付加価値を生んでいない。投資対効果を見る必要がある。
- ・ 「企業立地の推進のため土地利用の転換に努めます」は工業のために農地をなくすように聞こえる。
- ・ 北部・中部・南部という分け方には違和感がある。
- ・ 地域別に「整備推進」を示すと「他の地域ではやらないの」との疑問が出る。

まちづくりの基本目標

- ・ 厳しい状況のなか、我慢すべきは我慢する姿勢が計画に出ても良いのではないか。
- ・ 前期重点プロジェクトを含めて系列が上手くできていない。客観的にみてわかる説明が必要ではないか。
- ・ 「計画の推進に向けて」も政策だから6番目の目標と位置づけた方が良い。

- ・ いろいろな基本目標の最後に「推進」とくるのは違和感がある。
- ・ 前期重点プロジェクトの位置づけや意味についての説明が足りない。表現の仕方を工夫すべき。
- ・ 用語解説のページが離れて見づらい。見やすいようにコラム形式で差し込むのはどうか。
- ・ NPOの用語解説の英字つづりの誤りがある。
- ・ 総合計画は、動きの激しい時代なのでエキスにして、実施計画などで具体的に示したほうが良いのではないか。
- ・ ボリュームがあるがために、読んでもらえないこともある。

前期基本計画について

《全体を通して》

- ・ 全体的に、目標指標の設定が施策の全容を表すのに適当でないものが多い。
- ・ 目標指標を盛り込んだことは意義があるが、施策内容と合致していないものが目につく。適当な指標がなければ出さないほうが良い。
- ・ 全体的に夢がある感じで書かれているが、市民の自助努力と市のできる事が明確に分かれている。市民総参加のまちづくりを計画の前の方に書いて、市民も自助努力が必要だということを示さないと、市がすべてをやってくれると思う人が多いのではないか。
- ・ 今やっていることの延長を計画にあげていて、新しいものがあるという計画の作りになっていない。5年10年の計画なので先の姿を考えることが全体に足りない。
- ・ 「情報提供に努めます」とあるが、いろいろな提供の仕方があり、具体的に記載があれば良い。
- ・ 市民の理解と協力を得て、まちづくりへの積極的な参加と行動を促進するため、市政運営の指針を明確に示すべきではないか。
- ・ 計画にはわくわくする期待感をもたせる文言が多く、現在の厳しい状況では、できないものが、計画ではできるような印象を受けてしまう。前段の部分で、実際には厳しい財政状況の中で優先順位をつけ、取捨選択が必要だ、などと示すべき方向性をしっかり書いた方が良い。
- ・ 優先順位をつけて、あれもこれもではなく、あれかこれかという形で進めていくことが、計画の表現だと市民に伝わらない。
- ・ 従来から継続している施策と新たに力点をおいて取り組む内容を明確にすべきではないか。
- ・ 目標指標・数値の記載内容に、意図のわからないものが多いので再検討すべきではないか。

《基本目標 1 「魅力と活力にあふれる、にぎわいのあるまち」》

- ・ 現状と課題では海外へのシフトなど平成 2 年頃の記述がある。示している表でも同じ視点が必要となるのでは。
- ・ 工業振興は時代の流れから困難な課題であり、行政には限界がある。
- ・ 工業振興は市で問題を提起し、民間主導で方向性を探る必要がある。
- ・ 市内の多くの零細企業に下請けの仕事が来るような大企業を誘致しないと岡谷の活性化はできない。
- ・ 民間と行政のやることの仕切りが大切であり、企業誘致など民間にできないことを行政がやるべきである。
- ・ 企業誘致に、固定資産税の減免や上下水道料金の割引きなど費用面のメリットを計画に盛り込めないか。
- ・ 「スマートデバイス」の供給基地など理解している零細企業は少ないのではないか。
- ・ 民間の取り組みの集積が地域の産業構造であり、行政が具体的に表現するのは止めた方が良い。
- ・ 市内の小さい企業の情報を公開し、市内で受注開拓に活用できるようにすれば良い。
- ・ 行政の企業誘致のメリットと企業の求めるものに齟齬がある。広域で検討・対応 しては。
- ・ 粗付加価値額の目標は、目的に合致するか疑問であり指標も数値を丸めてはどうか。
- ・ 中心市街地にばかりに目を向け、地域に密着した郊外の大型店撤退などの施策が余り感じられない。
- ・ 商業の活性化には、歩いて、楽しみ、物を買うといった付加価値化が必要ではないか。
- ・ 市民をまちなかへ呼び込むためには、魅力的な活性化施策をこまめにやっていかないといけない。
- ・ 商業では、後継者対策、ララオカヤ、中央通りの 3 つの問題に特に注意していく必要がある。
- ・ 商業プラス・アルファで大胆に商業施設・医療介護モール・居住区などの複合化 を考えても面白い。
- ・ 高速道路の S A から出られるようにして、湊地区に道の駅を造れば活性化できると思う。
- ・ 製糸遺産も生かした国際自転車レースを市内で開催し、岡谷を P R してはどうか。
- ・ 製糸工場跡地などに案内板、ベンチなど整備し観光に喜ばれるまちに。
- ・ 農林業では「食の安全」に触れられていない。基本目標 3 の安全・安心のまちづくりにも関連してくるのでは。
- ・ 農業や漁業には産業として捉えるだけの規模や基盤があるのかと思う。そこへのパワーを工業や商業振興につぎ込んで生かした方が良いのでは。

- ・ 農地を再利用することは必要だが、業としてではなく余暇やリクリエーションとして貸し出してはどうか。
- ・ 技術専門校は諏訪に比べて時間や内容が少ない。もう少し勉強できる場所もほしい。
- ・ 外国人雇用対策としてスーパーや標識に外国語標記をしてはどうか。

《基本目標 2 「ともに支えあい、健やかに暮らせるまち」》

- ・ 健康づくりの推進はライフステージごと区切り、優先順位の高い課題を並べて、それに対して目標を設定してはどうか。
- ・ 健康づくりに市民が参加する仕組みづくりをしないと計画が成り立たない。市民総参加の健康づくりの方法を考えてもらいたい。
- ・ 「保健委員会」など団体の活動が知られていないので用語解説に入れてはどうか。
- ・ 特定検診の受診率を上げるために、国のペナルティを計画に示しては。
- ・ 健康増進計画はわかりやすい。広報等で親切、丁寧に啓発することが大切ではないか。
- ・ 予防対策の推進、母子保健の充実、医療体制の充実の目標指標は再考すべきではないか。
- ・ 新型インフルエンザの危機管理について、不安に思っていたので力強く思った。
- ・ 新型インフルエンザや東海地震対応では、市でできることは限られているが、知らない人が多いので、広報等で知らしめてはどうか。
- ・ 病院事業で、大学からの派遣で先生が変わるが、医師が代わらない病院を望む。
- ・ 病院統合の方向に動いているが、どんな病院にしたいのか、計画を読んでも伝わりにくい。他の地域の方々にも利用される病院になれば良い。
- ・ 病院統合が、医師不足や赤字経営などの緊急課題にどう結びつくか説明不足ではないか。
- ・ 塩嶺病院の特科部門は、今後も継続できるような体制が必要ではないか。バレーボールのまちづくりでも、ひとりの人に期待したり負担がかかってはいけない。
- ・ 地域サポートセンターの設置促進の思いが伝わらない。市全体のイニシアティブ取るような方法を考え、文章に記述すべきではないか。
- ・ サポートセンターの設置は、老老介護の現状があり、お互いに体制が息詰って進まない。行政に頼るのではなく、受益者負担で公平性を持っていくべきと考える。
- ・ 地域サポートセンターの目標指標は、5年10年の目標ではなく、いち早く全区やるよう加速すべき。
- ・ 10年後のシミュレーションの上で施策をつくっているのか不安。民生児童委員に頼るのではなく、それに変わる仕組みが必要。一般論的なものでなく具体的なものを入れてほしい。
- ・ 人材の育成が重要だと考える。素晴らしい人材を後押し下支えすることを入れたら良い。

- ・ 団塊の世代の社会進出が地域サポートセンターにつながれば良い。
- ・ 国民健康保険、市立病院、メタボ健診を市が行い完結する。これらをシステムでデータを活用して保険料や医療費の削減につながれば良い。
- ・ 高齢者福祉の推進で、要介護認定率を指標にする気持ちはわかるが、現実的でないと考える。
- ・ 防災ラジオでラジオ体操を流して健康づくりをしてはどうか。
- ・ 自己管理に血圧計購入に補助してはどうか。
- ・ Hib ワクチン接種の補助を他に先駆けて実施し、子育てにやさしいまちを PR し、人口増につなげてはどうか。
- ・ 各区に医師を派遣して予防接種をして接種率を上げてはどうか。
- ・ 母子保健の充実の目標指標が「むし歯のない子の割合」という局部的な捉えはどうか。
- ・ 高齢者福祉の目標指標が「要介護認定率」がいきなり出るが、介護予防への取り組みとの関連をわかりやすくつなげた方が良い。
- ・ 温泉を生かした宿泊施設や温泉ランド的な多くの人利用できるものがほしい。
- ・ 子育て支援の充実、保健医療の充実、生涯学習の推進、国際理解の醸成にも関わり、組織内・組織外の横の連携が重要ではないか。
- ・ 子育て支援センターとサポートセンターが連携して、一時的に子どもを預かる場所を充実してほしい。

《基本目標 3 「自然環境と暮らしが調和した、安全・安心のまち」》

- ・ 高齢化で防災無線やメールでの検索願が増えている。火災の対応でも高齢化に必要な具体的な施策を掲げて良いのではないか。
- ・ ごみ減量、資源化をすれば最終処分場の延命につながることを、施策にどう反映されているのか検討いただきたい。
- ・ 緑のカーテン事業は効果があるのなら中途半端な目標でなく全市的に取り組むべきではないか。
- ・ 「自然とのふれあい」は目標 3 の環境でなく、目標 4 の学校教育、青少年健全育成に付け加えた方が良いのではないか。
- ・ 民間の公衆浴場活性化は、市の管理する複数の施設で対応可能ではないか。
- ・ 災害時の情報発信・管理に踏み込んだ記載が必要ではないか。豪雨災害の経験を形にする施策を求める。
- ・ 治山治水事業は簡単ではないが、目標指標を入れて岡谷市独自の事業を推進すべきと考える。
- ・ 偽装問題等で食の安全が揺らいでいる。生活安全対策の推進に施策として記載すべきではないか。
- ・ 地球環境の目標指標の緑のカーテン登録件数はいかがか。工夫があれば良い。

- ・ バイオマスエネルギー、ビオトープ、アダプトプログラムなど用語解説はあるが、市民に馴染みのない言葉がでてくるので検討いただきたい。
- ・ 環境と公害について、中小企業にもできる範囲の目標を立てて工業振興からも連携をとってはどうか。
- ・ 自然と共生するまちづくりでは自然が破壊される。人を入らせない方法とはれないか。
- ・ 企業でも紙のリサイクルでゴミ減量している。一般ゴミも分別を継続してやれば良い。
- ・ 防災無線で火災の出動先や災害の状況など放送してはどうか。
- ・ 緊急地震速報を民間が情報を希望した場合に流すようなビジョンを持ってはどうか。
- ・ 学校付近の道路での時間の通行規制等していても、違反車が多い。スクールゾーンとしない理由を調査し、小学校の登下校の安全のためにスクールゾーンの設置を検討してはどうか。

《基本目標4「生涯を通じて学び、豊かな心を育むまち」》

- ・ 図書館、学校図書館の整備をお願いしたい。
- ・ 新学習指導要領に伴い小学校での外国語授業への対応をお願いしたい。
- ・ 不登校児童への対応を改めて見直していただきたい。
- ・ 前期重点プロジェクトに「輝く子どもの育成」を掲げるので、学校や図書館の整備を、今までと同じ流れでなく変えていくべきと思う。
- ・ 学校間格差をなくし、ボランティア精神を子どもの頃から教育してほしい。
- ・ 学齢期の生活習慣については、健康推進課などと連携を図って進めてほしい。
- ・ 各分野に長けた年配の方を学校教育に取り込んでいただき、教育とは違う側面で社会教育をしてほしい。
- ・ 子どもの放課後の居場所づくりとして、学童クラブの対象年齢の拡大などをお願いしたい。また、学童クラブと並行して子どもの居場所をつくっていくことをお願いしたい。
- ・ 外から見ると岡谷には他と違う文化があると言われる。採算性だけでは解決できないソフトの部分に力を入れてほしい。
- ・ 岡谷のカノラホールや諏訪の野球場など、ひとつの自治体では重荷になるため、連携や枠組みを考える必要があるのではないかと。
- ・ 製糸関係の建物など、岡谷を拠点に下諏訪や上諏訪も一連のものとして考えてはどうか。
- ・ 近代化産業遺産の建物を巡るなど、文化を継承する知識や誇りを持つことも必要で、学校教育のなかに取り入れてもらいたい。

- ・ バレーボールのまちづくりは、監督が代わってチーム力が落ちてしまった。これからも進めていく施策として入れるべきかどうか。
- ・ 外国籍児童について日本人と同じように教育することが、外国人が増える中で必要で課題のひとつだと思う。
- ・ 祖父母へ孫の今時の育て方の教育を、生涯学習の講座などで親と同じ目線でやっていけるようにしてほしい。
- ・ スポーツ文化の振興で、よそから岡谷に来てくれることを考えなくてはいけない。総合的に岡谷を全国にPRする何らかの施策が打ち出されるべきではないか。
- ・ 学校教育の充実の指標は、不登校児童ではなく学校施設整備とすべきではないか。
- ・ 特色ある学校づくりや国際理解、情報、環境教育などを他と関連付けて具体的な実施計画につながることを期待する。
- ・ 多文化共生は重要な施策であり、観光やサービス業と関連づけた施策の検討を望む。
- ・ 中学校の制服についてデザインや素材を検討していただきたい。
- ・ 不登校の子どもでも卒業資格をとれるような対応を望む。
- ・ 学校や公民館のパソコンソフトが古いので時代に合ったものにしてほしい。
- ・ 安全・安心の教育で、子どものパトロール隊への補助と隊員増の活動、啓蒙をお願いしたい。
- ・ 青少年の健全育成の指標が野外活動センター利用者というのもいいが、ほかに代表する指標があるのではないか。
- ・ こどものくにについては子育て支援の面からもさらに充実させ、できれば歯科衛生士や保健師、栄養士を配置していただければありがたい。
- ・ やまびこトレーニングセンターをもっと活用していけば、健康推進にもなるし、保健医療関係にも役立つ。また、カノラホール、蚕糸博物館については、もっと宣伝していただきたい。
- ・ カノラホールでコンサートがあるとき、やまびこで健康講座があたり、横川の土手で花見ができたり、ツアー的に関連付けてはどうか。
- ・ 市史の編集で、委員を決めて積極的に取り組んでいただきたい。
- ・ エースドッジボールの大会が小学生だけの行事になってしまった。市民みんなで楽しめるよう力を入れてほしい。
- ・ 高齢者のスポーツのひとつの施策として、マレットゴルフの位置づけを高めて普及を図ってほしい。
- ・ 外国籍児童の学校授業について市役所や学校等一箇所に集めて専門に日本語や文化の教育をしてはどうか検討していただきたい。
- ・ 10年前にも同じ話しをしたが、旧庁舎、現消防庁舎を歴史的価値や立地条件から美術館等に生かせないか。
- ・ 婦人会も高齢化し後に続く人がいない。団塊の世代より若い人が行事に参加するようにしなくてはならない。

- ・ 生糸に関連した岡谷の特異な文化や歴史の話を募集してはどうか。
- ・ 教員住宅は、民間アパートの借上げ補助や教員優先の市営住宅などできないか。
- ・ 各学校に分散している外国人児童を集めて定期的な特別教室を開講できないか。
- ・ 岡谷をロボットのメッカにできないか。
- ・ 岡谷をスポーツ選手の合宿のメッカにできないか。
- ・ 工業振興のために理数を専科とする優秀な先生の配属等を県に働きかけられれば良い。
- ・ イルフ童画館、蚕糸博物館・美術考古館の活用は、イベント等の企画立案を市民や民間に委託してはどうか。
- ・ 国・県・市が指定した文化財を市のホームページに公開してほしい。

《基本目標5「快適に生活できる、都市機能の充実したまち」》

- ・ 企業誘致でも目標を示し情報公開することで、市民と同じ方向に向かっていくことができる。目標を出すということは怖いリスクもあるが公開すべきではないか。
- ・ まちの活力を高める市街地整備として、中央通りを元気にする小さなグループがあり、そうした努力を目玉に何とかできる方法はないか。
- ・ 市街地開発で10年かけて何かをやろうとしたとき、無理な場合には撤退する勇気も必要ではないか。
- ・ 中心市街地の都市機能の誘導、集積では、福祉・教育・医療など庁内の横の連携が必要ではないか。
- ・ 商業的に10年の計画の中で、縦割り行政の弊害をどう越えていくかが非常に大きな課題。弊害を越える組織づくり、体制づくりを望む。
- ・ 中心市街地の整備は市民の関心が高いが「検討」の範囲で具体策が見えない。
- ・ ICバイパス周辺に商業施設が進出する気配がなく、岡谷の玄関として打つ手はないか。
- ・ 住居を中心に駅が近い、買い物ができる、医療がある、学校があるといった複合整備が必要ではないか。
- ・ 空き家を活用しようとする小さな動きに目を向けてほしい。
- ・ 4,000戸もある空き家を有効に使わない手はない。空き家の活用により、市営住宅も要らないのではないか。
- ・ 空き家を活用したい人や貸したい人への、開かれた相談窓口を作っていただきたい。
- ・ 目標指標の居住面積は不適切ではないか。
- ・ 郊外に団地ができるが、つながる道が細いままである。新しい計画のなかでもう一度検討していただきたい。
- ・ 道路工事が終わると路面がお椀型になり、乳母車も車椅子も通れない。そういうところに力を入れてほしい。

- ・ 道路工事で10年のなかでやるので、半年止まってしまう。一度にやっつけてしまえば良い。
- ・ シルキーバスも地球環境といった観点を前面に出して利用促進を図ってはどうか。
- ・ 街路樹は、景観上はともかく温暖化からも重要で、一般にもっとPRできないか。
- ・ 街路樹も諏訪湖のアダプトプログラムのように市民総参加で管理ができないか。
- ・ 都市緑化の推進の目標指標の「プランターの数」はいかがなものか。
- ・ 観光行政で、将来を見通して岡谷の素晴らしい環境を謳歌しながら、遠くの方々にも楽しんでいただく計画もぜひ理解いただきたい。
- ・ 公園整備で、従来の子ども重点の公園から高齢者対象の公園への転換を望む。
- ・ 公園の整備で、市民参加の管理や身近な公園の整備、既存公園の機能充実の具体的な内容を記述すべきではないか。
- ・ JR高架下全線をゲートボール場などにできないか。

《総合計画の推進に向けて》

- ・ 市民総参加で、まちづくり基本条例の言葉が入っていない。市民も知らない人が多い。一節盛り込んでどうか。
- ・ ニーズの把握のため市民の声を聞くのは結構であるが、それを具現化していくのは行政の責任ではないか。
- ・ 基本条例があること自体市民が知らない。総参加で参加せよといっても気持ちにギャップがある。
- ・ 意見を聞くのも、専門性の高い人の意見を行政に反映させることが必要ではないか。
- ・ 各種団体が自立するため、事務局を切り離しているが、進め方によっては市民総参加という方向性と逆になるのではないか。
- ・ 各種団体が活性化し、共に歩み、パートナーシップの協働の関係のなかで協力していただきたいことが、文章から読み取れない。
- ・ 区に対する育成を相当述べても良いのではないか。単純にコミュニティーと一般的に述べているが、具体的に述べた方が良いのではないか。
- ・ 岡谷市は区と行政が特異な関係にあり、行政から見れば有難い関係ができています。岡谷の特質としてクローズアップして取り上げてはどうか。
- ・ 「まちづくりの主役は市民」という表現は気になる。まちづくりの責任は行政にあり、市民は参画し、支え、協力するというレベルの域を出ないのではないか。
- ・ なんでもかんでも市民総参加と言うのはどうか。市民が総参加のイメージをどういう形で捉えているのか。市民の総意だから合併をやめるとするのは納得いかない。

- ・ 市民総参加の理念は良いが、押し付けるとかえって逃げてしまう部分もある。違う謳い方や表現の仕方がないか。
- ・ 民間経営手法の導入で、市を運営することは大事で、具体的な内容を入れてはどうか。
- ・ 受益者負担の適正化では、市民一人当たりの負担額をわかるように説明すれば納得する。
- ・ 行政組織には弊害があり、縦割りや慣例主義がある。文章のなかで、弾力的・柔軟とか効率的ではなく、もう少し明確な形で打ち出した方が心強い。
- ・ 合併以外でも手を組めることがいっぱいある。できるだけ連携して取り組んでもらいたい。
- ・ 「合併していたら、これはどうしたんだろう」という発想で、病院や体育施設、文化施設を考えることが大事ではないか。
- ・ 経済の世界にはボーダーがなく、日本という発想がない。岡谷市レベルでものを言うのは時代遅れというくらい、世の中は変わっているがどうか。
- ・ 若い人たちは、買い物でも食事でも、岡谷市という発想がなくなっている。
- ・ 窓口の対応や迅速な対応などソフト面の形が施策に出ていない。意識改革に対する施策をソフト面で載せてもらいたい。
- ・ 行政がスピードをもってやっていくことが大切。後手に回らないよう、スピードをどうつけるかが課題ではないか。
- ・ 合併を考えても、行政として伝えなければいけない情報がある。地域の将来を考え判断できるような情報提供を付け加えていただきたい。
- ・ 従来業者に委託していた計画を自分たちで作ろうというのは、大きく変わって素晴らしいことだと思う。
- ・ 市民が職員に要求するのと同じレベルに市民も意識を変えなければいけない。市民も努力するが、行政も変わるということを是非お願いしたい。
- ・ 総合計画の推進に向けては、5つの基本目標の上にくるものではないか。基本目標を達成するための大前提であると考える。
- ・ 意見を聞くのにも団体役員など同じような顔ぶれが多い。市民に説明する場を設けなければいけない。
- ・ 市民総参加の目標指標の「延べ参加者数」は、200人というレベルなので、一部の声しか上がってこない。
- ・ 総合計画に謳うことで市民に総参加が浸透すると思う。単純に一人ひとりが参加して、まちづくりしてもらえれば、経費がかからなくなる。
- ・ 工業振興で、土地の売買に補助や税制面の控除などできないか。工業用地を売るときに施策ができないか。
- ・ 病院の企業会計は非常に難しい。わかりやすい形で情報を出すことが必要ではないか。

- ・ カノラホールやスワンドーム、諏訪市の野球場など素晴らしい施設を一緒に使うことを考えなくてはならない。
- ・ シルキーバスの運行を電車に合うように改善されたい。
- ・ 施策展開の P181 の図と P18、P19 の計画推進の図を組み合わせ、視覚的にわかりやすい図表にしてはどうか。